

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	自分らしさがあふれる家庭的な雰囲気づくりを心がけている。 「自分が入所したい施設」を目指し、定期的開催される全体会での訓示と職員の意識改革を心がけている。 自分がされて嫌なことはしないという理念の統一を図っている。	前年の外部評価で制定をお願いした「理念」は、制定され、玄関に掲示されていた。職員にも周知され、意識改革に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会は存在しない 小学生の慰問・小学校の体験学習の場の設定（中学校・ボランティア） 運動会への参加（見学） 近所の人々の往来があまりなく交流を深める機会が少ない。 温泉館の開放システムの曜日の設定	若い人が多い住宅団地なので、自治会組織は、未だ出来ていない。 施設としては、牧地区の自治会に加入している。地域の下郡小・滝尾中・城東中とは、交流がある。 近隣との交流の場として、温泉館を活用している。	地域の小・中学校との交流を今後とも、活発化して下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している 2ヶ月に1回、15日に開催	運営推進会議は、2か月に1回開催されており、市長寿福祉課、地域包括支援センターの職員が参加している。議事録も整備されている。	運営推進新会議は、グループホーム運営の基本なので、必ず開催をしていただきたい。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問・質問を随時行政に相談し連絡を取り合うことを心がけている。	入所者の入院時のトラブルがあったが、市に指導を仰ぎながら、対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出防止の為、エレベーターは必要時のみ電源を入れている。	「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については、09年6月22日に職員全員を対象に研修を実施している。エレベーターの電源管理は、止むを得ないと思う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の信念を持ち日常のケアに携わっているが、法を学ぶ機会はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会や、知識をもっていない、実際に研修を受けていても症例とどうか対応する場面に接していない。		

9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>充分説明し、納得された上でサインをいただくようにしている。</p>		
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置 個別に相談面接 不満・苦情の改善への取り組みも実施</p>	<p>利用者家族等アンケートによれば、「本人の思いや願い、家族の要望に柔軟に施設は対応しているか？」の質問に、全員が対応してくれているとの回答であった。09年10月に、苦情処理についての職員研修を行っている。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議 個別の話し合い</p>	<p>全体会議は月1回、個別の話し合いは、必要に応じ開催している。当法人では、玉井施設長を雇用管理責任者に任命し、“介護労働者の労働条件等の雇用管理に関し、介護労働者の相談に応ずること”としている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勉強会の実施 (マナー・認知症・救急法等)の実施 スキルアップを目指した研修への参加 休憩時間がとれる勤務体制を望む</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人外の研修への参加 ・職員トライアルの導入 		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人外の研修での情報交換 交換実習の実施</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人と面会はしているが本人の意向を直接聞くことは困難 ・日常生活を観察する事で、フェイスシートやセンター方式の書類に書きとめカンファレンス等で介護の方向を見極めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族から現況を聞く場合が多く、求めていること、生活における注意点をよく聞くよう努力している。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>居宅や包括と連携を図る事で他のサービスへつなげられるよう支援を行なう。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>菜園やおやつづくりなどから学ぶ事が多々ある。昔の歌や遊びを教わることもある。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時には、体調面・日常のエピソードなど生活の様子を情報提供している。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔なじみの方の面会もあり。 ・他のセクションのサービス利用者との交流の場のセッティング。 ・行事計画の中に以前利用していたテーマの設定を心がけ 	<p>行事計画で、誕生会をレストラン（ジョイフル等）で、入所者全員参加で行うことを恒例化するなど、馴染みの行事としている。また、デイサービス利用者との交流会などを行っている。</p>	<p>誕生会や家族会など、当施設独自の取組については、今後も継続発展させて下さい。</p>

21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>良くも悪くも相性があり、その関係を把握しそれぞれが楽しくお互いを思って過ごせるように配慮している。</p> <p>座席のセッティング</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後、入院された方についてはお見舞いに行ったり、家族と連絡をとり継続的な関わりを持っている</p> <p>（退所後の実態把握）</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
23	<p>9 ○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人、家族から意向を聞いている。</p> <p>構音障害のある方に対しては、職員が訴えそうな言葉をなげかけ、ご本人の希望を引き出させるように努力している</p>	<p>年2回の家族会の内、10月開催分は、入所者を家族と同席で、鮪屋（すし名人）に招待し、食事を楽しんで貰っている。こういう行事を通じて、入所者・家族の思いや意向を把握するよう努めている。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前のアセスメントで、大まかな内容は把握しているが、ケアや日常の会話の中でも情報収集を行なっている。</p>		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定時のバイタルチェック ・センター方式の活用 ・日々の生活の様子の記録 ・いつもと違う事の発見 ・カンファレンスでの検討・プラン修正 		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスで職員の意見を聴く ・居宅療養管理指導内容の徹底 ・家族面会時、介護計画原案を示し意見をいただく ・定期的な見直し（3ヶ月ごと） ・状態の変化に対応し随時プランの変更を実施 	<p>サービス担当者会議の定例化により、3カ月に1回定期的な見直しを行っている。本人・家族の要望や、意見を聞きながら、必要があれば、随時見直しを行っている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族から意向をきいている。 ・一人ひとりのその日の様子を明確に記入、対応の改善につながるような記録に努めている。ケアプランの見直しに活かされている 		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのセッション合同でのレク活動 		

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる催し物 ・東大分小・・・運動会に出席 		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の往診</p> <p>必要に応じ、関係医療機関への情報提供・受診介助・処方受けの実施</p> <p>昔からのつながりがある医療機関を持っている方は、その関係を続けている。</p>	<p>協力医・福光医師には、月2回往診をお願いしている。関係医療機関としては、健生病院、わかば台クリニック、みはら整形外科がある。受診には、家族に協力をいただいている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の職員とかかりつけ医の看護師の連携により日常の支援はできている。処方薬の把握と適切な内服介助が全スタッフ行えている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頻繁に病院に出向き、Dr・Ns・ソーシャルワーカーなどから情報入取、今後の見通しについて相談を随時行っている 		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向を尊重、家族や主治医と施設職員との話し合いの場を設定、方向性を示している。	看護師（非常勤）の体制はあるが、終末期対応は体制上取れないので、終末期は病院にお願いすることになる。家族とは充分話し合っ、同意をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応ができる状況ではない。 救急法・看護法の講師を招き講習会を行った。AEDの使用方法も全員が訓練を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練・避難訓練の実施	消火訓練・避難訓練は、年2回実施している。牧地区の消防団に協力を行うお願いしている。スプリンクラーは、この3月に設置を行った。風水害対策計画は、08年大分市に提出している。	特に、夜間に災害が発生することのないように、最大の配慮をお願いしたい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーの保護を考えた対応はできている。 「できない」事を責めるのではなく「できる」事を発見するように心がけている。	前回の外部評価で、改善要望のあった「ケース記録」の保管については、事務室に施錠して行っている。入浴や排泄の際のプライバシー保護については、職員に対する研修を行った。	

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活でうまく意思表示できない方にも2つの選択肢を提供し選んでもらう工夫をしている。 ・個別に能力に合わせた対応を心がけている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>重介護の利用者のケアを優先にしているので、それぞれのペースに合わせた対応が困難</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>行きつけの理髪店に行ったり毛染めの希望があればそれぞれに対応できている。日常の身だしなみは、個別に対応できている。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>菜園やプランターで栽培した野菜を収穫し献立に利用している。 食事は一緒に食べている。 おしぼりたたみや各自の下膳・配膳者の上げ下げは生活リハの一貫として利用者で行っている。 月1回利用者と職員で昼食を作っている。</p>	<p>入所者の協力を得ながら、職員で食事作りをし、入所者・職員一緒に食事をしている。</p>	<p>今後も、入所者と職員が楽しく一緒に食事を行えるように、配慮をお願いします。</p>

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いの事前調査と代替食への移行 ・減量が必要な利用者に対しては量の調整 ・ムセや、誤嚥のある方にはトロミ剤の使用や配膳前のキザミを実施、エンシェア等の補助食提供 ・手指の力が入りにくい方にはおにぎりに形態をかえ、必要に応じて介助 		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の含嗽・歯みがきの声かけ ・眠前の義歯の除去・ポリデント消毒。訪問歯科の利用 		
43	<p>16 ○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>規定の時間を基本に個別に対応することを心がけている。</p> <p>トイレやポータブルトイレと各自に合わせた方法で支援している。</p>	<p>オムツ使用者は2人で、昼間は排泄チェック表で、トイレ誘導をし、自立への支援を行っている。その他の入所者にも、必要に応じ、排泄チェック表で、排泄の自立支援に心がけている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のラジオ体操 ・水分補給 ・腹部マッサージ、ウォシュレット刺激 ・ヨーグルト等のおやつ 		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員のほうで入浴する人を決めているが、希望があれば変更は可能である。</p>	<p>入浴は2日に1回となっている。自立者2名は、職員1名介助、その他の方には、職員2名が介助に当たっている。温泉で浴槽が1槽なので、男女別々の時間で、入浴することとなっている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに添った支援はできていない。 日中の活動を増やし、夜、良眠できるよう心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医往診時に症状を情報提供、処方変更があった場合には、スタッフ全員に申し送りを実施、症状の確認を徹底している。 ・緩下剤服用中の方の排便状態の確認、血圧測定時の異常値も主治医への報告ができるような体制 		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意分野を把握し、それぞれに役割を持って行ってもらっている。 作業終了後にねぎらいの言葉をかけ達成感をもってもらえるよう心がけている。</p>		

49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>隣のクリニックや散歩はその日の希望にすぐに応じられているが、車が必要なところは前もって準備が必要。</p>	<p>定例的な外出は、2週間に1回実施している。レストラン（ジョイフル等）でのおやつや、近隣のジャスコ・マックスバリュウ等での買物となっている。希望があれば、施設構内や隣のみはら整形外科の周辺の散歩にも応じている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できている方は1名、他の方は職員が管理し、外出時はおこづかいの範囲内で希望するものを購入している。支払、出納簿は職員が行う。</p>	/	/
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>部屋に電話を設置し、自由に連絡を取っている方もいる。 手紙の投かん代行の実施。 電話をかけてほしいといわれる方については、可能な限り連絡を取るようになっている。</p>	/	/
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関：居室の表札と同じ花の名前で靴箱が設置、はきかえ時に座れるような椅子が置いてある。 ・廊下：不要な障害物の除去 ・台所：共同使用の冷蔵庫 ・食卓：季節に応じた壁画や花瓶を置く ・他利用者の大声を不快に感じている方もいる 	<p>リビングルームは、高台の2階にあるので眺望が良く、大分市内や遠く別府も遠望できる。また、共用部分は、掃除が行き届いている。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・ソファの設置（2か所）</p> <p>気の合う方同士は席を近くにし、話をしやすいようにしている。</p>		
54	<p>20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い慣れた机、テーブル、椅子、仏壇、タンスの持ち込みで、家庭的雰囲気づくりを心がけている。</p>	<p>居室は、高台の2階にあるので、どの部屋からも眺望が良く、大分市内や遠く別府も遠望できる。花火大会の時など、入所者は大いに楽しんでいる。 ベッド・洗面台・クローゼット・エアコン・床頭台は、施設備え付けとなっている。机・椅子・仏壇等は、持ち込みで、馴染みの家具で落ち着いた生活を過ごしている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの入り口には大きく「便所」と貼り紙をし、分かりやすくしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない